

2 エボラ出血熱疑い患者の県内発生時の対応について

1 エボラ出血熱について

- (1) エボラウイルスによる感染症。感染すると2～21日（通常は7～10日）の潜伏期の後、発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛咽頭痛等の症状を呈する。次いで、嘔吐、下痢、胸部痛、出血（吐血、下血）等の症状が現れる。
- (2) 現在のところ、エボラ出血熱に対するワクチンや特異的な治療方法はない。
- (3) 患者の体液等（血液、分泌物、吐物・排泄物）や患者の体液等に汚染された物質（注射針等）に十分な防護なしに触れた際、ウイルスが傷口や粘膜から侵入することで感染する。
- (4) 空気感染はしない。

2 発生時の対応

下記対応フロー図に従い対応。

